

学校訪問記 特色ある教育を行う学校

大学と接続した新しい学びの創造

学校法人東北工業大学
仙台城南高等学校

『仙台城南高等学校』

仙台城南高等学校は、昭和35年に東北電子工業高等学校として設立されました。その後、共学化等を経て、平成25年に現在の校名への改名及び個性ある3学科への改編を行い、教育体制を整えました。

基本理念を「大学と接続した新しい学びの創造」として、同法人の設置する東北工業大学と連携し、グローバル教育とICT教育を2本柱とした情報科・国際化に対応した人材育成を目指しています。



仙台城南高校のキャンパス

【特色ある3つの学科】

本校では生徒の進路に応じた3つの学科を設置しています。

・特進科

国立大学や難関私立大学への進学を目標として、少人数編成による平日7時間授業、土曜日授業等を行う。

・探究科

国公私立大学への進学を目指し、タブレット端末を活用した探究学習によって、主体的に学ぶ力を身につける。

・科学技術科

専門的技術の修得と資格の取得を行い、大学への進学や就職にも対応する。また、東北工業大学と連携した7年間の学びを行う。

【東北工業大学との連携】

・テクノフオーラム

大学のオープンキャンパス等と同時に開催され、城南高生だけが参加できるイベントです。各学年や学科ごとにテーマを設定し、大学の講座を体験することが出来ます。大学の教育や研究内容を知ることにより、進路の選択や学習意欲が向上し、進路選択に生かすことができます。

・アカデミックインターシッ

高校2年生の後期から半年間、課外活動の一環として、希望する生徒が放課後等に大学の研究室の活動に参加する制度です。高校在学時に大学の専門的な指導を受けることにより、大学への進学意識を感じることが出来ます。

平成29年度は26名の生徒が参加しました。

・探究科・科学技術科の指導

探究活動や課題研究を支援するため、大学の教員が協力して、研究テーマの設定や研究方法について指導します。

・入学前教育

東北工業大学に12月に合格が決まった城南高生に対して、大学の教員が各学部で基礎となる科目を指導し、大学での教育に備えます。

・科学技術科と大学学部の連携

科学技術科では、1年次に基礎を学び、2年次からは4つのコースに分かれて専門性の高い知識と技術を身につけます。各コースはそれぞれ大学の2学部8学科と連携しており、大学の最新設備や研究室を活用することにより、高大7年間の学びを意識した教育内容となっています。

その他にも、オープンキャンパスでは、女子生徒に大学のキャンパスライフを知ってもらうための「女子カフェ」の開催、大学の教授等による夏季短期研修の「サマースクール」では、大学のライフデザイン学部の研究を体験す

る等、様々な高大連携事業が行われています。

これらの高大連携を組織的に行うために、平成29年に「学校法人東北工業大学連絡協議会（KJ協議会）」が発足しました。協議会では、2か月に1回程度の割合で分科会やワーキンググループを開催しています。

高校と大学は以前から連携を行っていましたが、KJ協議会が設置されて窓口が一本化されたことよって、より一層連携が強化されました。



KJ協議会の様子

【ICT教育】

情報化社会において必要な情報を的確に集め、分析する力を身につけるため、ICT教育に力を入れています。

平成26年度に全館のWi-Fi化と全教室のプロジェクト設置を行い、全て

の教職員と生徒が1人1台タブレット端末（iPad）を所持する体制を整えました。タブレット端末は特に、探究科のグループ実習の際に、情報収集や発表の手段として活用されています。教員もICTを活用して教材を作成することにより、共有化や省力化といった効果があります。

教員への支援体制としては、「ICT教育推進室」という部署があり、教員がいつでも相談を受けられるようになっています。

ICTを活用した教育研究を宮城県全域で協働して研究するために、「みやぎのICT教育研究専門部会」が26年に設置され、宮城県教育委員会、宮城教育大学、東北工業大学の三者で協定を締結しています。仙台城南高校は、事務局校・研究実践校として、授業におけるiPadの活用等の研究テーマを設けて教員がワーキンググループを結成して研究を行っています。

また、30年12月に行われた「研究協議会」では、会場校として、ICTを活用した研究授業を行い、県内外の多くの高校教員等が参加しました。

【グローバル教育】

2年生の修学旅行では、台湾やシンガポールへの海外研修旅行を実施して、事前の語学研修や訪問国の歴史・文化を学ぶプログラムを用意しています。

特に台湾の高校とは、県が台湾と協

定を締結していることもあり、互いの学校に訪問して生徒同士の交流を行っています。30年度は、5月に台南市南寧高級中學、2月に国立新竹高級工業職業学校の生徒と教職員が来訪し、授業体験や生徒同士の日本文化体験等の交流を行いました。

また、英語教育だけでなく、選択科目として中国語講座も開講しています。このような取り組みにより海外の大学に興味を持った生徒への留学支援も行っており、過去5年間に台湾の大学へ5名の生徒が進学しました。



台湾での海外研修旅行

【探究学習】

探究科では、総合的な学習の時間を「探究学習」と位置づけ、主体性を持つ課題を見つけ、課題を解決するこ

とにより、2020年度の新しい大学入試で問われる「思考力・判断力・表現力」を育成する「21世紀型」の教育を行っています。

各学年では次のような内容で学習を進めています。

・1年次（探究基礎）

探究学習の基礎として、情報の整理や論理的に考える方法、タブレット端末等を使用するための、情報リテラシーについて学びます。

・2年次（探究Ⅰ）

10〜15人単位のゼミナル形式で授業を行い、設定した課題について情報収集を行い、解決案を検討します。

高校のある八木山の地域の中から自分の関心のある課題を見つけ、フィールド調査として地域の施設訪問を行います。

・3年次（探究Ⅱ）

探究の成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションやポスターセッションで発表します。授業では「論文マップ」で論文の論理性について確認を行います。特に優れた成果を取めたグループは国際センターで生徒や保護者、審査員を務める大学教員の前で発表を行う機会もあります。

探究学習を導入したことにより、生徒が社会的課題に気付くようになり、進路に向かう姿勢が向上し、活動を通じて培ったプレゼンテーション能力が推薦入試の面接の場で役に立つ等、

様々な良い効果が表れ、探究学習導入前と比べて大学進学者が13%アップするなどの成果があがっています。



探究学習・課題研究発表会

【取材を終えて】

仙台城南高等学校では、3年間の高校生活で生徒一人ひとりの力を引き出し、大学や社会に送り出すことを教育方針として、「生徒を学校で仕込み、外に出して発酵させる」という例えで説明しています。

高大連携やICTの活用などの様々な「生徒を仕上げさせる場」を用意して教職員が一体となって教育に取り組んでいると感じました。

（取材）私学経営情報センター